

1. 日本におけるIFRS (国際財務報告基準) 導入予定とその影響

日本においても早ければ2015年からIFRS (国際財務報告基準) の導入が予定されています。これは日本の会計基準の根本的な見直しであり、その影響は会計処理のみならず業務、システムなど非常に広範囲な領域に及ぶものと考えられます。従来の日本基準と異なる項目、予定されている適用時期(コンバージェンスを含む)、そしてその影響が及ぶ領域は以下の通りです。

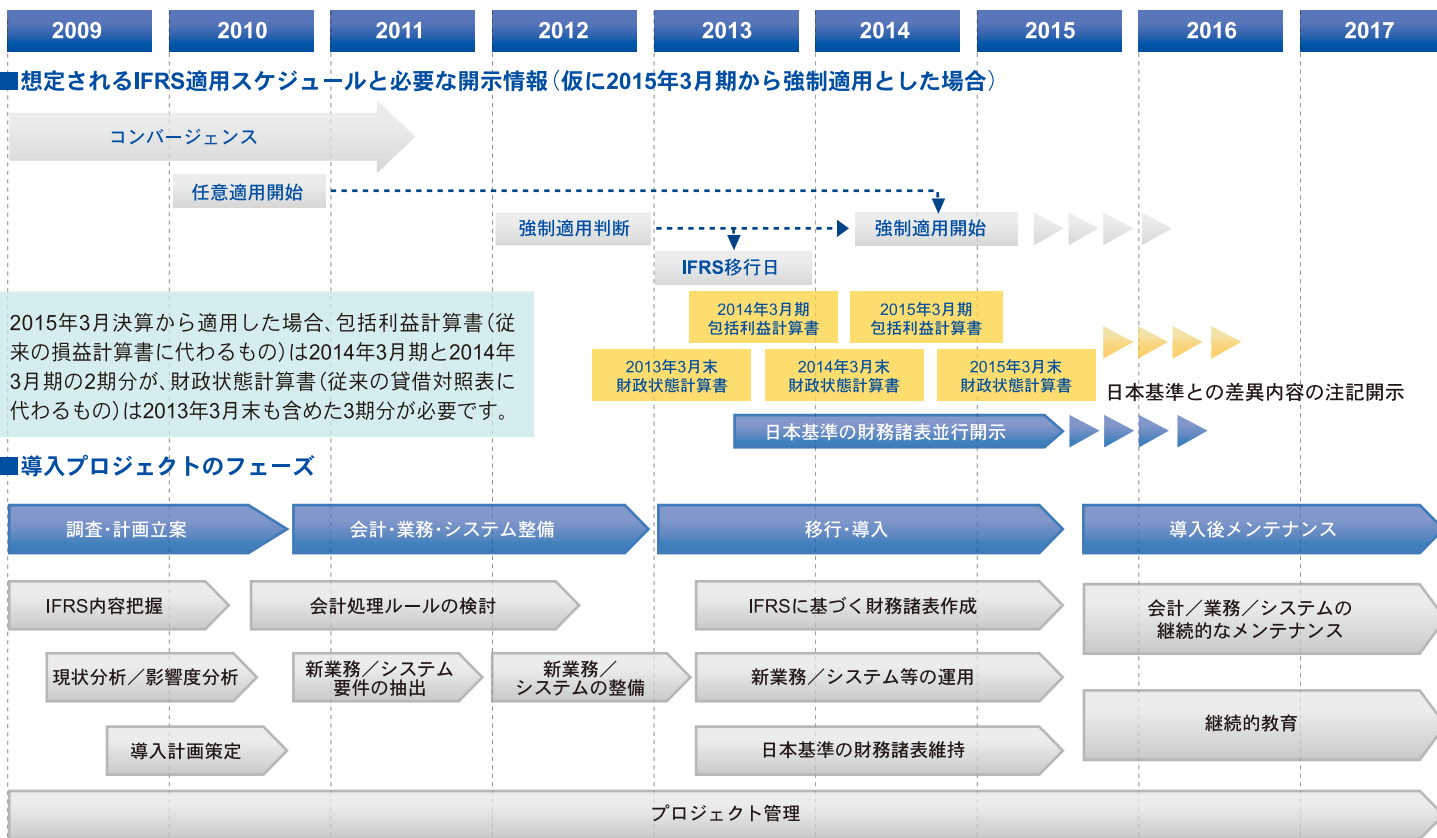
主な検討項目	適用時期	影響			
		会計処理/ 業績管理	業務処理	制度/ 取引形態	システム
棚卸資産(後入先出法)	2010年4月～	◎		○	◎
連結(子会社株式売買)	2010年公開草案予定	◎		○	
連結(子会社の決算日)	2010年4月～	◎		◎	○
連結(連結の範囲)	2011年基準公表予定	◎		◎	
企業結合(のれんの償却)	2010年基準公表予定	◎		○	○
企業結合(持分プーリング法廃止)	2010年4月～	◎			○
資産除去債務	2010年4月～	◎	○		◎
投資不動産(時価開示)	2010年4月～	◎		○	
セグメント	2010年4月～	◎			○
過年度遡及修正(会計方針の変更、過年度修正)	2010年4月～	◎	◎		◎
財務諸表の表示(包括利益、廃止事業)	2010年基準公表予定	◎	◎		◎
収益認識(純額表示)	2011年～公開草案予定	◎		○	◎
収益認識(認識時点)	2011年～公開草案予定	◎	◎		◎

主な検討項目	適用時期	影響			
		会計処理/ 業績管理	業務処理	制度/ 取引形態	システム
資本と負債の区分	2011年～公開草案予定	◎			
退職給付(数理差異等一括償却)	2010年～公開草案予定	◎		◎	○
リース	2011年～公開草案予定	◎	○	◎	◎
無形資産(開発費)	2010年基準公表予定	◎	○	○	○
公正価値測定	2010年基準公表予定	◎	◎		
金融商品	2010年公開草案予定	◎		◎	○
財務諸表の表示	2011年公開草案予定	◎	◎		◎
認識の中止(金融資産・負債の除去)	2011年公開草案予定	◎	○		◎
有形固定資産(耐用年数、取得後再評価etc.)	2015年以降	◎	◎	◎	◎
連結(在外子会社換算レート)	2015年以降	◎	◎		◎
引当金(有給休暇等)	2011年基準公表予定	◎	◎		
一株あたり利益	2011年基準公表予定	◎	◎		

(2009年12月時点)

2. IFRS適用タイムラインとIFRS導入プロジェクトの基本的なフェーズ

以下に示したスケジュールは、仮に2015年3月期からIFRSを適用することを前提とした場合に想定されるスケジュールです(すでに2010年3月から任意適用が認められています)。また、今後日本において強制適用するか否かの判断及びその内容については2012年頃を目処に決定される事となっていますが、会計のみならず業務やシステムへ重大な影響を及ぼす可能性が高く、出来るだけ早めに具体的な検討を開始することが重要です。



【調査/計画立案】 IFRSの調査・検討チームを編成し、IFRSの内容を把握した上で、現状の会計/業務/システムとのギャップ分析を行います。導入インパクト把握後、タスクを網羅的に洗い出し、導入までのスケジュールを作成します。

【会計/業務/システム整備】 IFRSの考え方に即した自社のあるべき会計処理ルールを具体化します。そしてそれを可能にする業務/システム/内部統制の詳細化を行い、必要に応じて業務改善及びシステム改修を行います。

【移行/導入】 2013年にはIFRSの財務諸表を作成できる状態へ移行しておかなければなりません。最初の移行期間においては従来の会計基準に基づく財務諸表の並行開示が行えるよう、業務/システム両面での手当てをしておくことが必要です。

【導入後メンテナンス】 導入後も会計基準変更への継続的な対応が必要です。基準の変更内容によっては業務変更やシステム改修が必要となりますし、最新のIFRSをベースとした社内教育も継続していかなければなりません。

3. IFRS導入プロジェクト フェーズ別支援サービス

各フェーズにおける支援サービスは以下の通りです。調査／計画立案フェーズから始まるプロジェクトの最初から導入後のメンテナンスに至るまでをトータルに支援します。クロスフィールドメンバーがクライアントプロジェクトメンバーの一員として参画する形態の他、アドバイザーとしてサポートする形態など、クライアントの要望に応じて柔軟に対応することが可能です。

調査／計画立案フェーズ		移行／導入フェーズ	
IFRS内容把握	・IFRSの解説／研修	移行・導入	・移行／導入時における各種サポート
現状分析／影響度分析	・現状の会計／業務／システムとIFRS適用に際してのギャップ分析の支援	導入後メンテナンスフェーズ	
導入基本計画策定	・導入に際してのタスク抽出／スケジュール案／体制案の策定に関する支援	会計／業務／システムの継続的なメンテナンス	・IFRS基準改訂に伴う各種対応検討支援
会計／業務／システム整備フェーズ		継続的教育	・IFRSの社内(グループ企業向け)研修実施支援
会計処理ルールの検討	・IFRSおよび現状の取引実態に照らしたあるべき会計処理ルール案の策定	プロジェクト管理	
会計処理マニュアルの作成	・会計処理マニュアルの作成支援	プロジェクトマネジメント	・プロジェクト管理全般に関する支援 ・外部監査人との協議等に関する支援
新業務／システム要件の抽出	・会計処理ルールに必要な業務改善設計およびシステム要件の抽出支援 ・決算早期化等を含めた業務改善支援		
新業務／システムの整備	・新業務への移行支援、システム改修(導入)支援		

4. クロスフィールドの強み／クロスフィールドだからできること

IFRS導入に際しては、会計／業務／システムを横断した総合的な分析・検討能力が求められます。クロスフィールドは会計専門スキルを有する公認会計士、数多くのシステム導入経験を有するITコンサルタント、業務改善を得意とする業務コンサルタントから構成されていますので、その総合力をもってプロジェクトを強力にサポートいたします。

経験とマンパワーを要する現状業務／システム分析及び課題抽出を強力にサポート

IFRS適用が企業の仕組みに与える影響はきわめて広範囲に及び、その導入作業では相当なマンパワーが必要になります。例えば収益の認識タイミングを従来の出荷基準から検収基準に変更する場合、まずは現行の販売取引パターンすべてを洗い出す必要があります。また、各取引パターンにおいて、どのように検収情報を収集するのかをシステム面・業務面の両方から考えなければなりません。場合によっては契約内容を個別に見直す必要もあるかも知れません。取引先や取引パターンが非常に多く、取引先との間で個別事情を抱えている場合には、これら調査・検討作業が膨大な量になります。クロスフィールドはこのような業務／システムの現状把握・ギャップ分析・課題抽出において数多くのプロジェクト実績を有しており、より効果的・効率的な作業遂行を実現します。

IFRSの導入にあわせた業務改善・決算早期化サポート

IFRSと日本基準との大きな相違点として開示情報量が挙げられています。IFRSの開示情報量は従来の日本の有価証券報告書の数倍とも言われていますが、この膨大な情報を適切に収集し、スケジュール内に開示資料を作成するには決算の早期化(標準化)を目指した業務改善が必要です。また業務改善に際してはJ-SOX対応(コントロール整備)も行わなければならない。クロスフィールドはこのような決算早期化(標準化)・内部統制対応を意識した業務改善案の策定において数多くのプロジェクト実績を有しており、クライアントの実情に合わせた効果的・効率的な改善対応を実現します。

会計専門スキルを生かした会計処理／業務マニュアルの作成サポート

IFRSに合わせた新しい会計処理ルールを整備し、それに合わせた業務改善・システム改修を行った後は、その内容を「会計処理マニュアル」「業務マニュアル」として文書化し、社内関係者・グループ企業担当者へ周知徹底していくことが内部統制上も重要なポイントにもなります。クロスフィールドは会計士を中心とした会計専門スキルをベースに、クライアントの立場に立って「会計処理マニュアル」「業務マニュアル」の作成をサポートいたします。

プロジェクトマネジメントサポート

IFRSの導入は社内の各種業務・システムへ広範囲な影響を与えます。従って全社的なプロジェクトとして取り組む事が成功への鍵となります。クロスフィールドには全社規模の業務改善やシステム導入のプロジェクトマネジメントに関する経験・ノウハウ・スキルが蓄積されており、プロジェクトマネジメントを強力にサポートいたします。

IFRS教育サポート

クロスフィールドは大手上場企業の管理者向け経理研修において、テキスト作りから研修の実施(講師)までを一貫して行っており、IFRS社内研修等において、研修のプランニングから各種テキスト作り、実際の研修の実施(講師)に至るまでをトータルにサポートいたします。